

氏 名	高 島 太
学 位 の 種 類	博 士 (安全保障学)
学 位 記 番 号	第 7 2 5 号
認 定 課 程 名	防衛大学校総合安全保障研究科後期課程
学位授与年月日	令和5年3月26日
論 文 題 目	同盟の経済学的分析—公共財・外部性の観点から—
審査担当専門委員	(主査) 広島市立大学 特任 大 芝 亮 教授 一 橋 大 学 教 授 山 田 敦 一 橋 大 学 教 授 大 林 一 広

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、国際関係において同盟がどのような機能を果たしているのかについて、同盟の経済学的分析に依拠し、公共財および外部性という概念を用いて計量分析を行ったものである。

第2章において公共財、補完と代替などの基本概念について考察し、第3章で NATO 加盟国の関係、第4章で QUAD での補完的關係、第5章で海外駐留米軍が同盟の補完性に与える影響を分析する。さらに第7章では防衛と貿易の代替性について、第8章で同盟システムが貿易パターンに与える影響などを、それぞれ計量的に分析している。こうした一連の分析を通じて、同盟は各加盟国が生産する防衛財に補完的な公共財としての性質を付与する機能を有しているとの結論を導く。また、貿易が国家の安全に正の外部性を生じさせることを同盟はさらに増加させる機能を有していると述べる。

本論文は、同盟の経済学的分析として公共財や外部性などの概念を精緻に検討している点、複数の重要なテーマのそれぞれについてきちんと先行研究を行っている点、そして、そのうえで緻密な計量分析を行っている点などにおいて、大変優れた論文といえることができる。

しかし、全体を束ねる問いの設定は弱く、個別の計量分析の結果を大きなテーマに結びつけることが必ずしも適切にはできていない。また、計量分析の対象国は、同盟国とはいえ大半が欧州諸国であり、結論を一般化するうえでやや難がある。さらに、同盟は集団的安保体制と異なり、同盟の外に敵の存在を想定することを考えると、公共財という概念は、

同盟内部に関してのみ適用できるものではないかとの疑問も提示された。これらの点について、より徹底した考察を行うことで、さらに優れた論文にしていくことが可能と考える。

以上のような課題を指摘することはできるものの、しかしながら、本論文が、同盟の経済学的分析に多大な貢献をしたものであると認め、博士（安全保障学）として合格と判定した。